



# 物語のある米 ～「牧場米」とは？

梶岡牧場 梶岡秀吉

山口県にある梶岡牧場では、現在約500頭の黒毛和牛の肥育をしている。自給率向上を目的とした農水省の事業による畜舎整備が今年3月に完了し、飼養頭数を250頭から500頭へ倍増した。そして私たちは、世界最高の肉質を誇るといわれる黒毛和牛を肥育するとともに、堆肥製造販売、直営レストランを経営している。

堆肥製造販売とは、畜舎の中に敷いた牛の布団となる木くずに糞尿を吸着させたものを6ヶ月間発酵・熟成管理をして商品としている。有機栽培などを行う上で、土づくりには必要不可欠なものである。堆肥製造に関して40年以上のキャリアやノウハウを活かして、最高品質の堆肥を県内を始め、県外の農家の方々にも提供し、PAグループが経営する茶畑にも使ってもらっている。

畜舎整備と平行して、自給率向上の一環として、一昨年より新たな取り組みをはじめた。地元である河原地区の稲作農家と連携した「稲ワラ堆肥交換」だ。

梶岡牧場が製造した堆肥を田んぼに散布する→稲作農家が米をつくる→米を収穫後の稲ワラを梶岡牧場が回収する→飼育する牧場の牛のエサとして稲ワラを使う→梶岡牧場で堆肥ができる→そしてまたこの堆肥を田んぼに散布する…と、これはまさに循環である！その上、このサイクルは美味しい肉質の和牛が生産できるとともに、美味しい良質の米が多く生産できる「正のサイクル」なのである！

実際、梶岡牧場の場合、農水省と県の畜産部との事業計画では5年計画で10haについての取り組みをお願いされたのだが、初年度で目標達成してしまった。また地元だけでなく、他地域からもこの取り組みを要請されたのだが、体制の整備も必要であるため丁重にお断りしている状態である。

ここで重要なキーポイントになるのが「高品質の堆肥」なのである。これがなければこの取り組みは

広がらないと断言できる。同じような取り組みは全国で無数に行われているにも関わらず、大半がうまくいってないのはこのためだ。まさに「負のサイクル」になってしまうからだ。ここで説明すると長くなりそうなので、それはまた別の機会にでも…。



そして、「正のサイクルから正のスパイラルへ」とその取り組みをさらにステージアップさせるために、そこで収穫された米を「物語（ストーリー）のある米」つまり「牧場米」として付加価値をつけて売るという仕組みを現在考案中だ。すでに、昨年PAグループに試験的に使用して頂いた。先月収穫されたできたての新米も、昨年の3倍近い数量をすでにPAグループ用に確保させて頂いた。

そして、究極の到達点は「米のロマネ・コンティ」である。どの地番の田んぼで誰が作ったものか区別し、ワインのようにテロワール（味わいに影響する土壌、地質、立地条件）を語る事ができる米ができればと思っている。ただハードルは高く、解決する問題も無数にあるので難しい…、でもチャレンジ！！ネタばらししているように見えるかもしれないが、なかなか簡単には真似できないから大丈夫。（笑）

とにかく、プライドある畜産農家、プライドある米農家、そしてそれらが強力なタッグを組んでこれらは初めて成立するのである。私は、収益性の低いといわれる農業で成功できるかどうかは、それに携わるすべての人が自分の仕事にプライドが持てるかどうか、そしてそのプライドをきちんと生産物に乗せて生活者に伝えることができるかどうかであると考えている。「牧場米」にご期待を！